

はあとのあと

“心を綴ったノート” “心が奏でる音”

珠洲市総合病院

TEL (0768) 82-1181

FAX (0768) 82-1191

2015(3)

第 39 号



いしかわ百万石・金沢まつり（金沢城公園）

病院理念

“市民の心の支えとなる、地域の中核病院に”

1. 疾病の予防から在宅医療までの一環した体制の確立を目指します。
1. 安心と信頼の地域医療を目指します。
1. いたわりの心で皆様の健康と命を守ります。

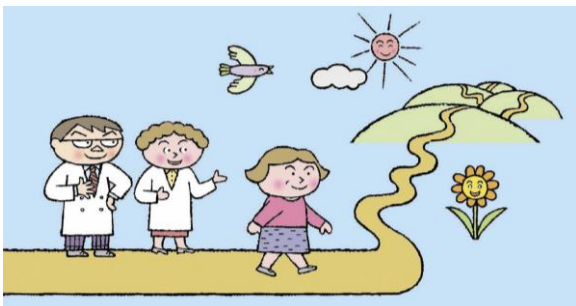
目次

- 糖尿病の治療 1
- 糖尿病の薬について～飲み薬や注射～ 2
- 隔週の金曜日に泌尿器科の診療が追加になりました 3
- 災害医療対策訓練が行われました
- ふれあい看護体験が行われました 4
- ICLS 石川すずコースが開かれました
- トキの写真展が開かれました

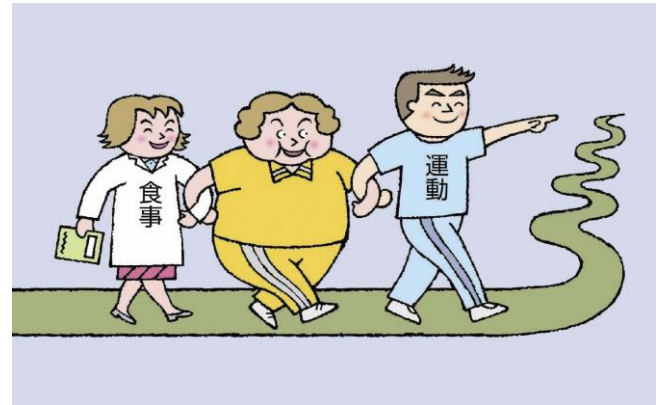
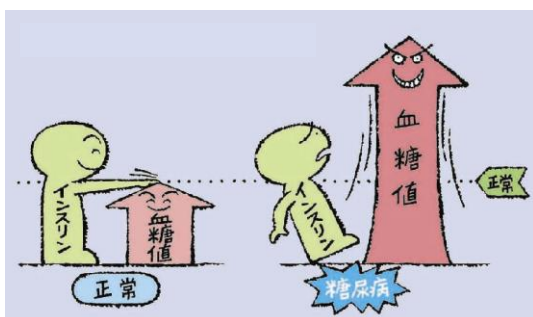


糖尿病ってみんなが嫌がる病気ですね。なぜでしょう。糖尿病になると治らない、一生おいしいものが食べられない、不自由な生活を強いられるというイメージでしょうか？健康！健康でいることについて考えたこ

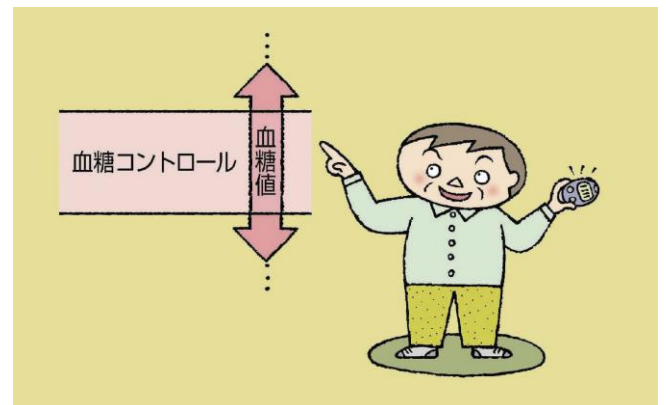
とがありますか？健康なときは考えませんね。そうです、不自由になって初めて考えます。なんで私がこんな不自由なことをしなければならないの！腹立たしい、情けなくなるかもしれません。“食事療法なんてできるか”と否定したくもなります。しかし、私たちは糖尿病になっても元気で働く、生活を続けることが求められます。糖尿病になっても人生を辞めるわけにはいかないのです。糖尿病とともに歩む人生を考えなければなりません。これまでと同じ生活では糖尿病はよくなるかもしれません。変えていくことが必要となります。それは大変なことです。



子供も糖尿病になります。1型糖尿病、昔は小児糖尿病といったときもありました。1型糖尿病の子供達を対象とした小児糖尿病サマーキャンプが石川県でも毎年行われています。昨年は幼児～中学生が16名参加しました。すべてインスリン注射が必要な子供です。幼児期は糖尿病という認識がなく親や医療者の指示を比較的守ってくれます。その後、自分が他人と違うということを認識するようになり、そのうちに血糖をコントロールすることが日常となってきます。大人で多い2型糖尿病患者さんも同じようなプロセスで、糖尿病の治療が生活のなかでできるようになると思います。



食事を考え、薬を飲んだりインスリンの注射をしたりして、常に今の自分の血糖がどうなっているかを認識することが望まれます。そのためには、医師だけでなくいろいろな医療職、例えば看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師など多くの人もかかわって、糖尿病患者さんと相談してより良い治療、生活ができるように知恵を絞っていくことが必要です。水曜日の糖尿病予防教室や外来などでも、少しでも時間をとって合併症を予防するため、血糖コントロールの目標達成のための話ができればと考えています。体重が下がらない、甘いものが食べたいなど悩みはつきませんが、一緒に頑張ればと思います。



糖尿病予防教室

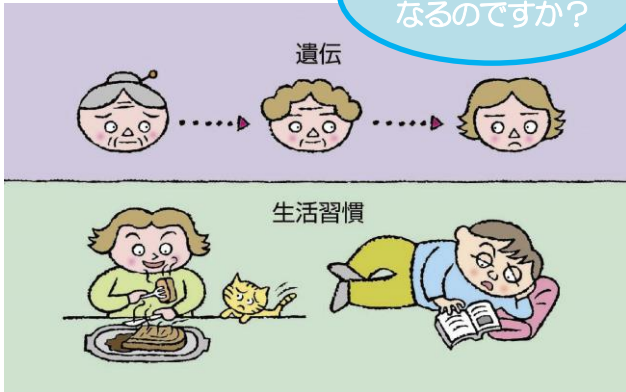
日時：毎週水曜日 午後2時～3時
(第5水曜日はお休みです)
場所：2階 医師会室

関心のある方はどなたでも参加できます。週によって話の内容が変わりますが、都合の良いときから参加してください。



今回、薬局からのお話は、糖尿病の患者さんに使用される飲み薬や注射について、特に新薬と言われている薬の話題について、解説していきたいと思ひます。

なぜ糖尿病になるのですか？

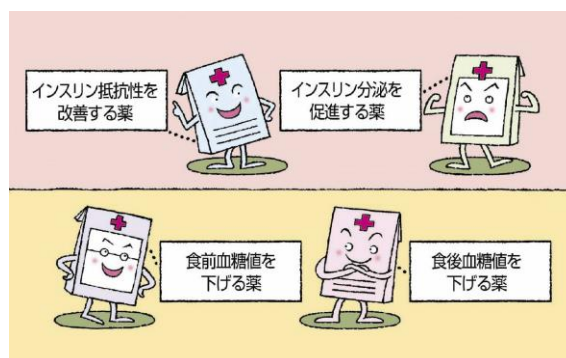


糖尿病の薬は、食事や運動といった治療法を頑張っても十分な血糖コントロールが得られない時に使用されます。近年、飲み薬ではDPP-4阻害薬・SGLT2阻害薬、注射ではGLP-1受容体作動薬という新しい作用機序（どのような働きで血糖を下げるのか）の薬が続々と発売されました。つまり一人一人異なる糖尿病の病態に合った投薬を行う選択肢（薬）が増えたこととなります。

・飲み薬について

糖尿病の飲み薬はその作用機序から、下記の7つに分類されています。今回は6と7の薬について説明しますが、他の1～5の薬についても薬局窓口のカウンターに説明書が準備してありますので、ぜひ一読してください。

1. スルホニル尿素薬
2. 速効型インスリン分泌促進薬
3. ビグアナイド薬
4. チアソリジン薬
5. α-グルコシダーゼ阻害薬
6. DPP-4阻害薬
7. SGLT2阻害薬



DPP-4阻害薬

当院ではグラクティブ、エクア、ネシーナ、トラゼンタ錠の4種が採用されています。この薬はインスリン分泌を促すホルモンのインクレチンを増やすことで血糖を低下させます。

SGLT2阻害薬

当院ではスーグラ錠が採用されています。この薬は体内ブドウ糖の尿中排泄量を増やして血糖を低下させます。糖尿病患者さんは重症になってくると、その名の通り、糖（ブドウ糖）が尿中に出てきます。この薬はこの糖の量を増やすことで糖尿病の改善につなげようと逆転の発想で考えられたユニークな薬です。

上記2剤が期待されている理由

1. 低血糖が少ない、これは両剤とも上昇した血糖に対して作用が強く働くので低血糖を起こす危険性が極めて低い
2. 体重増加の傾向はない（DPP-4阻害薬）、または体重は減る傾向が認められる（SGLT2阻害薬）

・注射について

糖尿病の注射というと、多くの方がインスリンを思い浮かべると思いますが、近年、インスリン以外の糖尿病注射薬が発売されました。GLP-1受容体作動薬といって当院ではビクトーザ、リキスミアの2種が採用されています。この薬の作用機序は、DPP-4阻害薬で述べたインクレチン（GLP-1）を体内で分解されにくい様、構造に細工してインスリン分泌を促します。メリットは飲み薬の2剤と同じく、体重減少効果と低血糖の危険性が低いことが挙げられます。

限られた紙面では十分書ききれませんが、糖尿病治療に新しい選択が加わり、その恩恵を受けられる患者さんも多いのではないかと期待します。

隔週の金曜日に泌尿器科の診療が追加になりました

7月から泌尿器科の診療が毎週月曜日だけでなく、隔週の金曜日にも行っています。
 詳細は以下になります。

受付時間：月曜日、金曜日共に8時00分～11時30分 …診療日

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
							30	31												

災害医療対策訓練が行われました

6月20日、災害医療対策訓練が行われました。
 この訓練は災害発生時における病院の体制、職員の初期行動、各部門の対応行動を互いに共通認識することで、災害拠点病院としての災害対応能力の向上を図ることを目的に毎年行われています。訓練は能登半島東方沖でM7.8の地震が発生し、その後津波が発生するという想定で行われ、医師や看護師、事務職員ら約100名が参加しました。

はじめに平日の午後3時頃に津波警報が発令されたと想定し院内避難訓練を行いました。エレベーターが使えない中、車椅子やエアーストレッチャーを用いて、模擬患者を1階から2階へと避難誘導しました。その後、地震や津波による傷病者の受入訓練を行い、トリアージと呼ばれる傷病者の治療優先順位決定技術を確認しました。訓練では次々運ばれてくる模擬患者を症状に応じたエリアに分ける、各エリアで診療や別の病院への搬送を行うといった対応を職員全体で取り組みました。



訓練後は参加した職員で反省会を行い、災害時における各々の行動や改善点を確認しました。最後に浜田院長は「細かい部分で直すところはあると思いますが、基本的なことが良くできており、すばやく状況を判断し動いていたと感じました。いつ災害が起きても対応できるよう今後も訓練を続けていきたいと思います。」と講評を述べました。

当院では、今後もこのような訓練を通して患者さんや地域の方々にさらなる安心を提供していきます。

珠洲市総合病院来院中に地震による津波警報が発令された場合のポイント

- ① 津波警報が発令されたら外に出ない。
- ② 職員の指示に従い、落ち着いて2階へ避難する。(自力での歩行が困難な方は職員が対応します。) ※地震発生時、エレベーターは利用できません。
- ③ 津波警報が解除されても余震の恐れがあるので、行動する際には十分気をつける。



ふれあい看護体験が行われました

5月20日、当院でふれあい看護体験が行われ、飯田高校の2、3年生18名が参加しました。参加した学生は浜田院長から辞令と激励の言葉を受け、シーツ交換や食事、入浴の介助などを行いました。参加した学生からは「患者さんにやさしく接する看護師を見て私もそうなれるようがんばりたいと思いました。」「今日1日患者さんとの散歩や食事の介助を体験してコミュニケーションをとることがとても大事だと感じました。」といった感想がありました。初めて体験する看護師の仕事に、慣れないながらも一生懸命取り組む姿に患者さんも笑顔で応えていました。

今回の体験を活かしてみなさんが将来立派な看護師になり、珠洲市総合病院で一緒に働けることを楽しみにしています。



ICLS 石川すすコースが開かれました

ICLSとは「Immediate Cardiac Life Support」の略称で、突然の心停止に出会った際の最初の10分間への対応と適切なチーム蘇生に関する医療従事者向けのトレーニングです。5月23日に日本救急医学会が認定するコースが当院を会場に能登地区で初めて開催されました。ディレクターの金沢大学の稲葉先生、公立能登総合病院の認定インストラクターの方など様々な方にご協力いただきました。



医師や看護師、救急救命士などがスタッフや受講者として30名参加し、院内に開設された複数のブースに分かれ、認定インストラクターの指導を受けました。受講者は蘇生の必要性の判断やAED（自動体外式除細動器）の操作・気道確保・心臓マッサージや状況に応じた薬剤の投与、心停止の原因検索などといった蘇生の手順を確認しました。また実際の心停止の発生状況を想定した実習など、コースが掲げる目標を習得するためのさまざまな講習を受けながら、技術の研鑽に努めました。

トキの写真展が開かれました

院内で右のような写真を見かけた方もいるのではないのでしょうか？

これは5月25日から31日までの期間に当院に展示されたトキの写真です。これらの写真を撮影したのはキャノンクラブの方々。キャノンクラブからは病院広報誌にのせる写真をいただいております。前号の表紙にも使われました。写真展では躍動感のあるトキの姿や、食餌、水浴びといったトキの生態を写した写真など32点もの様々な写真が展示されました。



外来診療日程

平成27年7月1日現在

午前 受付時間 8:00~11:30 診療時間 9:00~12:30

診療科	月	火	水	木	金	
内科	1 診	波佐谷	川崎	波佐谷	循環器	波佐谷
	2 診	川崎	小泉	中島	出島	烏川
	3 診	出島	中島	小泉	烏川	川崎
外科	坂本	萩野	坂本	中山	萩野	
呼吸器外科						田村 ほか
小児科	和田	田崎				
耳鼻咽喉科	榎田	阿河/加納	榎田			
整形外科	大成・中西					
産婦人科	山城					
脳神経外科	浜田	会田/北林		浜田		
泌尿器科	毎週月曜日(休日の場合は次開院日) 角野/泉/八重樫/町岡 隔週金曜日 中島/武澤/岩本					
皮膚科	谷内		永岡		尾高 診療開始 10:00~	
精神科		西村	西村			
健診室	佐々木					

午後 受付時間 12:00~16:00 診療時間 14:00~17:00

診療科	月	火	水	木	金	
内科	1 診	佐々木	烏川	佐々木	小泉	小泉 (予約のみ)
	2 診		石崎			
小児科	予防接種	慢性疾患	健診・予防接種		予防接種	
耳鼻咽喉科				榎田		
眼科				馬渡 ※第2、第4木曜日を除く	馬渡	
産婦人科	産後2週間健診		産後1か月健診		産後2週間健診	
禁煙外来(産婦人科)				予約のみ		

編集後記

健診室にて毎年恒例の特定健診を実施中です。お気軽に健診室へご相談ください。また当院では脳ドックを水曜日と木曜日に行っています。脳ドックを受ける方は予約が必要となりますので、健診室までご連絡ください。

小児科(要予約)

- (月) 予防接種 14:30~
- (火) 慢性疾患 14:00~16:00
- (水) 健康診断 13:30~
予防接種 14:30~
- (金) 予防接種 14:30~

産婦人科(要予約)

- (月)(木) 助産外来 10:30~午前中
- (月)(金) 産後2週間健診 14:00~
- (水) 産後1ヶ月健診 13:30~

その他

- (水) 糖尿病予防教室 14:00~15:00
- (月)~(金) 医療相談

※救急患者は、表示時間に関係なく診療いたします。

※表示日程は都合により、一部変更になる場合があります。

※眼科(木)(金)午後~
眼科診療日程参照

※泌尿器科 毎週月曜日、隔週金曜日
泌尿器科診療日程参照

※午後の初診の方は、できるだけ15:00までに受付をお願いします。

